

フィニッシュ(個人戦術)のキーファクター

グループ	No.	キーファクター	留意点
①	0	守備の三原則	①ボールとゴールの中心(またはマークする相手)を結んだ線上に立つ。 ②ボールとマークする相手を同一視野に入れる。 ③相手にプレッシャーをかけつつ突破されない距離をとる。
①	1	攻撃の優先順位	ゴール(シュート)→ラストパス→前方(中央→サイド)→横(中央→サイド)→後方(中央→サイド)→作り直し→ゴールキックになる・相手陣地深くで失うの順に選択する。 ★カウンターにつながるボールの失い方は必ず避ける。 ★シュートが入りやすいエリア・入りづらいエリアを理解する。(「ビエルサライン」を知る)
	2	プレーの優先順位	動く速さは①ボール②ボールを持っていない選手③ボールを持っている選手の順なので、速いものから優先的に選択する。
	3	周りを観る	常に周囲の状況を把握し、適切なプレーを選択できるようにする。
	4	味方・相手のいない場所を見つける	フリーになれるスペースがどこにあるかを常に探す。
	5	ボールを持つ前に次のプレーを考える	1つ1つのプレーを早く・速く・正確に行う。 どこにボールを欲しいのかを言語・非言語で出し手に伝える。 思い通りのプレーができなかった時の選択肢を用意しておく。 首を振って状況を正しく認知する。 直前で判断を変えられるようにする。
	6	体の向き・ポジショニング	パスを受ける前にボール保持者とゴールを同一視野で見られるようにする。 ファーポストに向かってシュートが打てる態勢をとり、体の向きを変えずに左右に蹴り分けできるようにする。
②	7	ミドル・アタッキングサードの意識	リスクを冒してよい場所であることを認識する。 シュート・ラストパス・ドリブル突破をより強く意識してプレーする。
	8	仕掛けるべき状況を認知・理解する	「目の前の相手を突破したら決定機・ビッグチャンス」の所で仕掛ける。
	9	ボールに近づく・ボールから遠ざかる判断	パスの質や状況を観てプレーの判断を変える。
	10	より状況の良い選手を使う	フリーな選手・前を向いてボールをもらえる選手を使う。
	11	パスを出す前に次のプレーを考える	受け手に何をさせたいのかを考えてパスを出す。 次にどんなプレーをしてもらいたいのかを言語・非言語で受け手に伝える。

フィニッシュ(個人戦術)のキーファクター

グループ	No.	キーファクター	留意点
③	12	数的同数・優位を作る	ボール保持者を孤立させることなくサポートし、数的優位を作る。それが難しければ少なくとも2vs2の状況を作り、ボール保持者にパスの選択肢も持たせる。
	13	3人目の動き	自分以外の選手に向かってボールが動いている間に動き出す。 相手のバランスを崩すポジションを取る(ボールが来る確率は高くないが、来たらビッグチャンスになるポジションを取る)。
	14	次のプレーを考えて関わり続ける	「パスを出したら終わり」「思うタイミングでパスが来なかったからそこで終わり」となったり、ボールが遠い位置にあるからといって無関係になったりしないようにする。 ※直接ボールが来ない距離・場所にいたり、動かず止まっていたりした方がよい状況もある。
	15	リバウンドやこぼれ球に反応する	自分や味方がシュートを打った後のボールにも予測・反応する。
④	16	動き出しのタイミング	ボール保持者が周りを観る事ができ、かつ意図したところにボールを蹴ることができるタイミングで動く。
	17	スルーパスの使い分け	ボール保持者に対する相手の立ち位置によって、縦・斜めのスルーパスを使い分ける。
	18	ダイアゴナルラン	ゴールやチャンスにつながるパスを受けるためのバリエーションを増やす。 斜めに動くことで相手にマークの受け渡しを発生させたり、相手のマークを自分に引き付けることでボール保持者がドリブルするスペースを作ったりする。
	19	突破するラインの裏や横で前向きにボールを受ける	相手ラインを突破できるポジショニングを意識する(受ける準備をする際に加速をつける・つけない・ダイアゴナルラン)。 ※体を前に倒すとオフサイドになりやすいので注意する。
	20	中間ポジションを取る(「位置的優位」を意識する)	相手ディフェンスを引き付ける・ギャップを突く。 横だけでなく縦(ライン間)の中間ポジションも意識する。

フィニッシュ(個人戦術)のキーファクター

グループ	No.	キーファクター	留意点
⑤	21	ラストパスに対するポジショニング	ラストパスとシュート、2本の線によって生まれる角度が狭いほどシュートが打ちやすくなる。 ※パスとシュートのボールの動きがお互いに逆であることが前提。シュートを打ちたい方向に向かってパスが動いていればシュートは打ちづらくなる。
	22	相手の背中を取る	自分とボールが相手の同一視野に入らないようにする。
	23	スペースを作る・使う(個人)	ボールを受けたい場所から離れることでマークを引き付けてスペースを作り、本当に受けたいタイミングでそこに入る。 ボールを受けることだけを目的とするのではなく、相手選手を自分に引き付けたり、より相手ゴールに近づくパスが通せるようコースを開けたりする。
	24	予測	プレッシャーの有無や視線、ボールの置き所、ボール保持者の体の向きなどから、プレーの選択・ボールの長さや強さ・方向を予測する。 ボール保持者が周りを観られる・自由にボールを蹴れる状況にある→受け手主導 ボール保持者が周りを観られない・自由にボールを蹴れる状況にない→出し手主導
⑥	25	「質的優位」のポジションを意識する	ゴールを意識するとともに、誰に(どこに)ボールを入れたらチャンスになる可能性が高いかも頭に入れる。
	26	即興的なプレー・相手が予測できないプレーをする	相手を欺くためのひらめき・アイディアを持つ。
	27	切り替え(攻→守：ネガティブトランジション)	攻撃時にボールを奪われた時の事(ボールを奪われた瞬間どこに動くか・優先的に守るべきエリアはどこか・即時奪回かリトリートか)を考えておく。